

令和4年12月12日

みなかみ町総合戦略課 地方創生室企画係

令和4年度みなかみシェアサイクル実証実験 最終報告

実証実験概要

みなかみ町は、水上温泉街及び周辺観光施設において、観光客や地域住民の交通手段を確保し、回遊性と満足度を高めるため、また実証実験として利用状況等を把握し、シェアサイクル導入の可能性を調査するため、令和4年4月1日から令和4年11月30日までシェアサイクルの実証実験を実施しました。

実施エリア：水上温泉街及び周辺観光施設

設備：サイクルポート8箇所、電動自転車32台、サイクルラック64台分

ポート：JR水上駅、源泉湯の宿 松乃井、みなかみホテルジュラク、ふれあい交流館
道の駅 みなかみ水紀行館、湯テルメ・谷川、JR上牧駅、JR上毛高原駅

利用方法：スマートフォン等を利用し、専用アプリからポート情報の確認、貸出、返却及び決済を行う。どのポートからでも貸出、返却が可能。

調査期間：令和4年4月1日(金)～令和4年11月30日(水)

料金：25円/15分 800円/12時間上限

実施体制：実施主体/みなかみ町 運営会社/ecobike株式会社

利用状況

1. 実証実験期間(4月1日～11月30日の243日間)の利用回数は合計2,310回であり、1日あたり約9.5回の利用があった。
2. 全トリップ数のうち62%が「JR水上駅」を発着地とした利用であり、公共交通機関の補完機能を果たしていると考えられる。
3. トリップパターンでは、JR水上駅⇔商業施設の利用が最も多く、交通手段が限られる観光客の足として有効な手段であったことが分かる。
4. 月別の平均利用時間では、休日が平日の利用時間を上回っており、平日と休日の利用者では利用者の属性や目的が異なることが考えられる。

アンケート

本格導入に向けての有効性と課題の検証を目的とし、調査期間内にみなかみ町を利用地域に登録した会員を中心に、利用の有無に関わらずアンケートを行った。

1. 回答者の年齢は、20～50代が80%と最も多く、男性が60%であった。
2. 住まいの地区は、「群馬県外」が63%と最も多く、次いで「旧水上地区」と「群馬県内(みなかみ町を除く)」が17%で同数であった。
3. 利用目的は、「観光」が84%と最も多く、次いで「近隣飲食店への交通手段」が16%であった。
4. シェアサイクルによって期待される行動として、80%の人が「行動範囲が広がると思う」「観光の幅が広がると思う」、40%の人が「健康に対する意識が高まると思う」と回答した。

5. 「ecobike アプリ」「貸出・返却」「料金」の項目については、約9割以上の方が「とても満足」もしくは「やや満足」と評価したが、「自転車数」「サイクルポートの場所」については、約4割の人が「普通」もしくは「やや不満」と評価した。

6. シェアサイクルを利用しなかった（できなかった）人は、50%が「興味はあったが利用機会がなかったから」、次いで30%が「行きたいところにサイクルポートがなかったから」「その他」と、利用しなかった（できなかった）理由を挙げた。

7. 今後ポートを増やして欲しい場所では、「JR土合駅周辺」「道の駅周辺」「宿泊施設や日帰り温泉施設」が40%で最も多く、次いで「JR後閑駅周辺」「スーパーマーケット周辺」と、駅周辺を希望する意見が多かった。

8. 今後利用できる（利用回数が増える）支援については、「ポートの増設、エリアの拡大」が54%で最も多く、次いで「決済手段の追加（現金、電子マネーなど）」が40%であった。

9. 97%とほとんどの方が、今後もシェアサイクルを利用したいと回答した。

実証実験の総括

■実証実験の評価

1. 利用者の評価

利用開始から順調に会員数を伸ばし、1日あたり約9.5回の利用があった。今後の利用については97%の人が「利用したい」と回答したことから、利用者には好評のサービスであったと言える。

2. 公共交通の機能補完の役割

「JR水上駅」を発着地とする利用が62%を占めており、駅から目的地までの移動手段として、公共交通の機能補完の役割を果たしたと考えられる。

3. 観光に有効な移動手段

利用目的については「観光」が84%を占めており、また平均利用時間が「58分53秒」と他自治体と比べて利用時間が長いことから、交通手段に限られる観光客の足として有効な手段だと期待される。

4. シェアサイクルによる地域活性化

シェアサイクルの利用によって「行動範囲が広がる」、「観光の幅が広がる」という回答が多く、新たな流動が生まれていると考えられる。今回の目的である「回遊性を高める」効果が期待される。

■今後の課題・方向性

1. ニーズに応じたサイクルポートの拡充

利用者アンケートの「今後どのような支援があれば利用できる（利用回数が増える）か」について、54%の人が「ポートの増設、エリアの拡大」と回答しており、道の駅周辺や宿泊施設への設置を求める声が多かった。このようなニーズに応じたポートの拡充に対する検討が必要である。

2. 利用実績

コロナ禍で観光客が少ない状況であったが、平日・休日ともに安定した利用があった。今後継続した事業展開をしていくためには、さらに利用回数と利用時間を伸ばしていく必要がある。ポートによっては、利用頻度の高いポートに自転車台数を増やすなど、さらなる検討が必要である。

3. 消費行動の把握

ポート間の移動パターン別利用回数については現在のシステムで把握できるが、ポート間においてシェアサイクル利用者がどのような行動を取っているかが把握できていない。利用者の行動を把握することで効果的なポート設置や台数配備が可能となることから、GPSロガーを活用した経路分析の実施など、消費行動の把握に向けた検討が必要である。